第１学年○組　国語科学習指導案

令和３年○月○日（○）第○校時　　指導者　○○　○○

１　単元名　ねことねっこ

２　単元の目標
（１）促音を正しく読んだり，表記したりすることができる。　〔知識及び技能〕（１）ウ

（２）語と語の続き方に注意することができる。　〔思考力・判断力・表現力等〕Ｂ（１）ウ

（３）「ねことねっこ」の詩を特殊音節に気を付けて正しく読んだり書いたりしようとしている。
〔学びに向かう力，人間性等〕

３　単元で取り上げる言語活動
　促音のある言葉を使って文を書くことができる。　（関連：言語活動事例ア）

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　促音を正しく読んだり，表記したりしている。	①　語と語の続き方に注意して書こうとしている。	①　「ねことねっこ」の詩を特殊音節に気を付けて正しく読んだり書いたりしようとしている。

５　指導と評価の計画（全２時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準及び評価方法
一	１	○「ねことねっこ」の詩を声に出して正しく読む。	〔知①〕（観察・発言） ○「ねことねっこ」の詩を特殊音節に気を付けて正しく読んでいる。
	２	○「ねことねっこ」の詩を声に出して正しく表記する。	〔表①〕（観察・ワークシート） ○促音のある言葉を見付けて正確に書いている。 〔態①〕（観察・ワークシート） ○「ねことねっこ」の詩を特殊音節に気を付けて正しく表記しようとしている。

６　指導上の立場
○単元観
　本単元は，第１学年及び第２学年の〔知識及び技能〕（１）言葉の特徴や使い方に関する事項（１）『ウ　長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。』と〔思考力・判断力・表現力等〕Ｂ書くこと（１）『ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。』を受けて設定した。
　本単元「ねことねっこ」では，促音と濁音，半濁音を扱う。促音は，１拍の待機音節である。口でためて発音したところを小さい「っ」で表記する。実際には，「っ」という音を発しているわけではないので，表記から抜けてしまいやすい。まずは，「ねこ」と「ねっこ」の発音の仕方の違いに気付かせてから，表記の指導を行う。
　特殊音節の指導については，発音に関する指導と関連させるとともに，日々の学習の積み重ねの中で，次第にその規則性に気付き，身に付けていくことができるようにすることが大切である。４月以降学習してきた「うたにあわせてあいうえお」での「あいうえお」に乗せた言葉遊び歌のおもしろさと，「かきとかぎ」の唱え歌での濁音の言葉のおもしろさに加えて，本単元ではさらに意味のおもしろさが加わっていることを，声に出して楽しむ中で感じさせたい。そうした学習を通して，促音の有無の違いを見分けたり，読み書きにおいて適切に使い分けたりする力を育てていきたい。

○児童観
　本学級の児童（男子○名，女子○名，特別支援学級○名，計○名）は，音読することが好きな児童が多い反面，読みにくい平仮名があったり，言葉のまとまりが分からなかったりするために，

拾い読みなどの逐字的な読み方しかできない児童も数名いる。
　本単元につながる唱え歌や詩を声に出して楽しむことは，これまでに数多く経験してきている。また，単元「はなのみち」では，くまさんとりすさんのやり取りの楽しさに浸りながら進んで音読するだけでなく，「いっぱい」「はいって」「しまった」「いっぽんみち」などの促音の言葉に注目しながら，場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉える学習にも取り組んできている。
　そこで，本単元でも，声を出して読むことを通して楽しく言葉と向き合うことを大切にしたい。そして，言葉遊びのおもしろさ，促音の有無によって意味が変わるおもしろさを楽しむ中で，音と文字，言葉の関係についても気付くことができるようにしたい。

〇指導観
研究主題
　『「温かい人間関係づくり」～特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりと落ち着いた学習集団づくりを通して～』を受け，めざす児童像に迫るために，本単元の展開では，次のような工夫をする。

①　特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりの工夫
◇　授業内容の構造化について＜「焦点化」（シンプル化）＞
・　フラッシュ型教材を用いて，清音の復習や「MIMはやくちことばしゅう」の音読をさせることで，清音と特殊音節の違いを確認することができるようにする。
・　教科書P.４６の「ねことねっこ」の詩を確認し，本時は「つまるおと」を正しく読むというめあてをつかむことができるようにする。
・　学習の流れを掲示して見通しをもたせることで，ゴールの姿（どんな力が身につくか）を意識しながら取り組むことができるようにする。
・　「つまるおと」を正しく読むための４段階
　　① 音の確認（声に出す）
　　② 視覚化（記号で表す）
　　③ 動作化（手で表す）
　　④ 音と文字の対応（ひらがなに変身）
としてキーワードでまとめることで，これからの学習に自分事ととして生かすことができるようにする。

◇　参加の促進について＜「共有化」（シェア）＞
・　教師の範読を聞いて，気付いたことを話し合わせることで，「ねことねっこ」には小さな「っ」（促音）がたくさんあることに気付くことができるようにする。
・　挿絵を見せて，誰がどうした話なのかを押さえることで，「ねっこ→いっぴき」「はらっぱ→はしる」「ねっこ→とびこえ」「ばった→かけっこ」の様子のおもしろさに気付かせたい。
・　本時の学習で「つまる音を学習してわかったこと頑張ったこと，もっとやってみたいこと」などの観点を示すことで，本時の自分の学びを自分の言葉で振り返ることができるようにする。

②　落ち着いた学習集団づくりの工夫
・　４人班編成（班リーダー制）で朝の学習や授業時間でのペア学習やグループ学習を日常的に行う中で，自分の役割や分担を意識しながら，意見を交流したり，まとめたりする力を育むと共に，互いの良さや共に学ぶことの楽しさを実感できるようにする。
・　授業の始めにフラッシュ型教材を用いて，清音の復習や「MIMはやくちことばしゅう」の音読をすることを続けることで，気持ちを切り替えて落ち着いて学習に向かう構えをつくる。

７　本時案（第一次 第１時）
(1) 本時の目標
　「ねことねっこ」の詩を特殊音節に気を付けて正しく読むことができる。

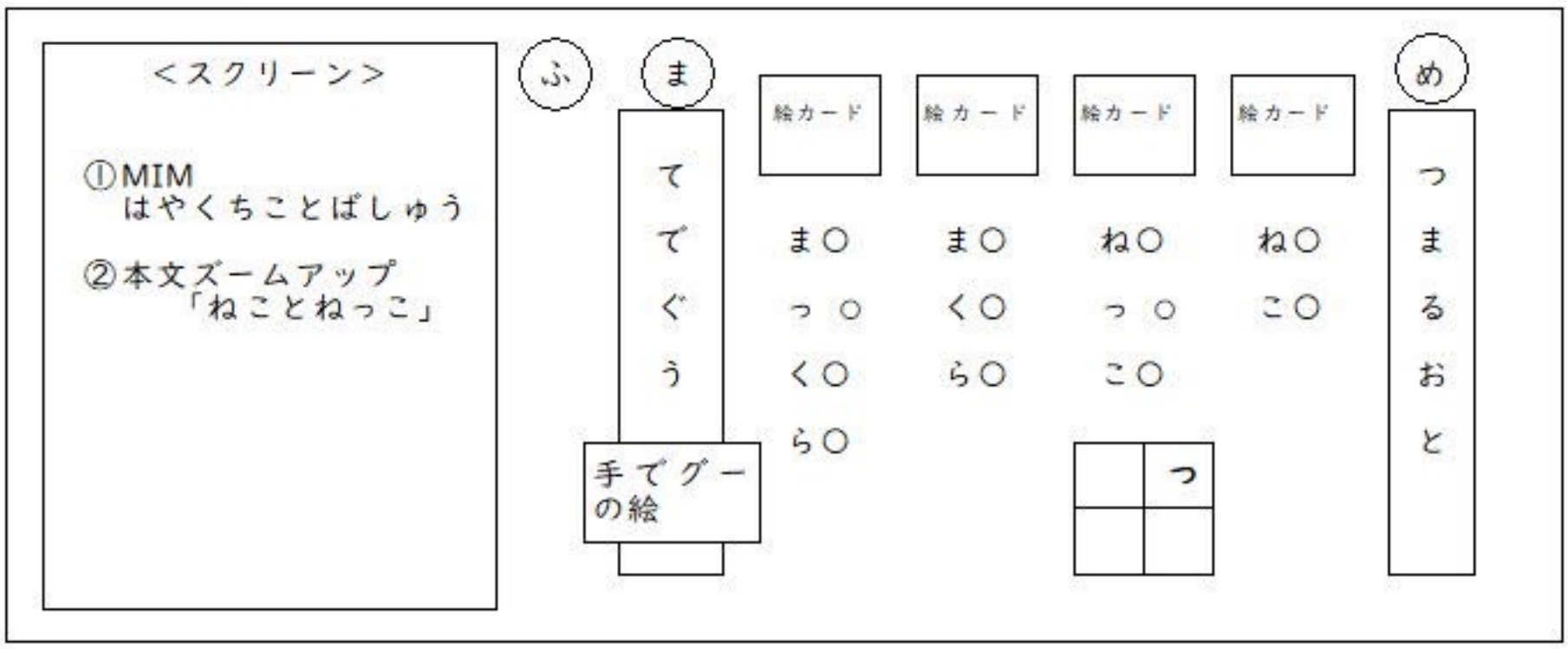
(2) 展　開

学習活動	教師の指導・支援 【焦点化・共有化】	評価規準及び 評価方法
1　本時のめあてをつかむ。	・フラッシュ型教材を用いて，清音の復習や「MIMはやくちことばしゅう」の音読をさせることで，清音と特殊音節の違いを確認することができるようにする。 ・教科書P.46の「ねことねっこ」の詩を確認し，本時は「つまるおと」を正しく読むというめあてをつかむことができるようにする。 【焦点化】	
めあて　「つまるおと」をただしくよもう。		
2　「ねことねっこ」の詩を楽しむ。 （1）音の確認をして気付いたことを話し合う。	・教師の範読を聞いて，気付いたことを話し合わせることで，「ねことねっこ」には小さな「っ」（促音）がたくさんあることに気付くことができるようにする。 ・挿絵を見せて，誰がどうした話なのかを押さえることで，「ねっこ→いっぴき」「はらっぱ→はしる」「ねっこ→とびこえ」「ばった→かけっこ」の様子のおもしろさに気付かせたい。 【共有化】 ・自分の考えをもちにくい児童には，ペアの友達と一緒に考えることで，「ばったとかけっこ」の様子のおもしろさに気付くことができるようにする。	
（2）視覚化する。	・教師が「ねこ」と「ねっこ」の絵を提示して，音で表したものを○で示すことにより，どちらも○が二つであることや「ねっこ」には音にはならないけれど，何かあることに気付くことができるようにする。 ・「音にならない何か」を小さな○で表すことにより，どこに小さな○が入るのかを教師が小さな○を動かしながら児童とやり取りし，「ねとこの間」に「音にならない何か」があることを確認させる。	
（3）動作化する。	・「ねこ」「ねっこ」を○で示したものを今度は動作で表すことを伝え，動作化について説明することにより，小さな「っ」（促音）は音にならないけれど「ねとこの間」に確かにあることを目と体で感じ取ることができるようにする。 ＜説明＞ ①大きな○→「手をパチン」 ②小さな○→「手でグーをつくる」	
（4）音と文字の対応をする。	・○で示したものを一つ一つ「ひらがな」（文字）に置き換えることにより，音と文字が対応していることに気付くことができるようにする。	

	＜文字との対応のルール＞ ①大きな○→大きな「ね」「こ」 ②小さな○→小さな「っ」 ・小さな○は，小さな「っ」を書いて表すことや，小さな「っ」を書くときは「ひらがなのお部屋」の２の部屋に書くことを教師が板書で確認することにより，文字とのルールの理解を徹底したい。 ※「まくら」「まっくら」についても同様に行う。	
3　本時の学習をまとめる。	・本時のめあてに立ち返り，どうすれば「つまるおと」を正しく読むことができるかを問うことで， ① 音の確認（声に出す） ② 視覚化（記号で表す） ③ 動作化（手で表す） ④ 音と文字の対応（ひらがなに変身） の４段階に気付くことができるようにする。	
まとめ	「つまるおと」は手でグーをつくると ただしくよむことができる。	
4　本時の振り返りをする。	・「ねことねっこ」の詩を提示して，「つまるおと」を確認した後で声に出して読むことにより，言葉のリズムや詩のおもしろさを感じることができるようにする。 ・本時の学習で「つまる音を学習してわかったこと頑張ったこと，もっとやってみたいこと」などの観点を示すことで，本時の自分の学びを振り返ることができるようにする。　【共有化】	○「ねことねっこ」の詩を特殊音節に気を付けて正しく読んでいる。 【知・技】（観察・発言）

◎「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断する児童の姿の例
※「ねことねっこ」の詩を特殊音節に気を付けて正しく読んでいる。
【知・技】（観察・発言）

【板書計画】



第１学年○組　国語科事後反省

令和３年○月○日（○）第○校時　　指導者　○○　○○

① 特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりの工夫

◇　授業内容の構造化について＜「焦点化」（シンプル化）＞

【◎成果】

・　授業の始めに行ったフラッシュ型教材を用いて，清音の復習や「MIMはやくちことばしゅう」の音読をさせることで，清音と特殊音節の違いを体感することができるようにした。そして，教科書の「ねことねっこ」の詩を確認することで，本時は「つまるおと」を正しく読むというめあてを児童一人一人がもつことができた。

・　板書に学習の流れを掲示して見通しをもたせることで，ゴールの姿（どんな力が身につくか）を意識しながら取り組むことができた。

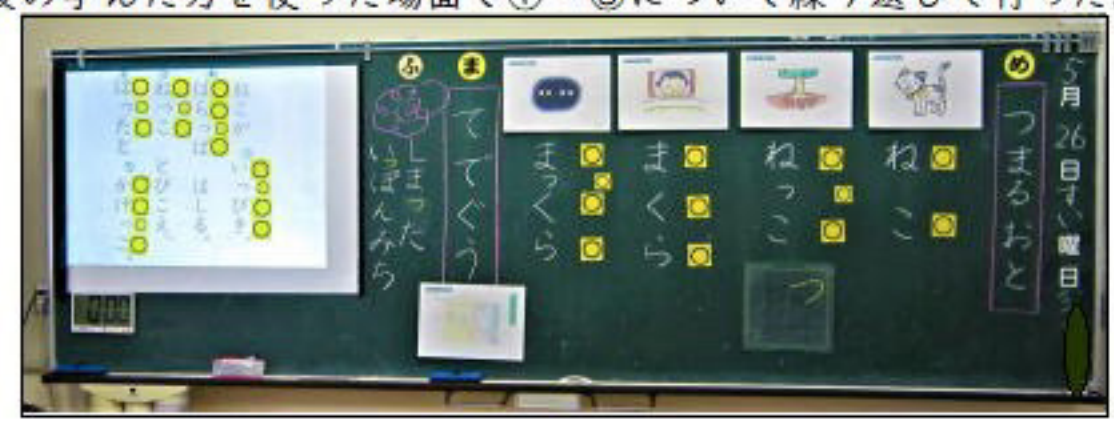
【▲課題】

・　「つまるおと」を正しく読むための４段階

① 音の確認（声に出す）
② 視覚化（記号で表す）
③ 動作化（手で表す）
④ 音と文字の対応（ひらがなに変身）

の中で本時では，まとめの後の学んだ力を使った場面で①～③について繰り返して行った。

活動の焦点化



板書の構造化

本文「ねことねっこ」にある特殊音節についてクイズ形式で問題を出した。スモールステップになるように出題の順を考えて行ったが，第１問め「ねっこ」と第２問め「ぱった」についての○（モーラ）の比較や第３問め「いっぴき」の○（モーラ）と第１・２問めとの違い，さらに第４問め「はらっぱ」，第５問め「かけっこ」の○（モーラ）と第３問めとの比較等，丁寧に問うことできなかった。促音のある言葉に出会った時に，自分事として比較したり，応用したりする見方・考え方を育てることが，授業を離れた日常の中につながる深い学びになるのだと感じた。

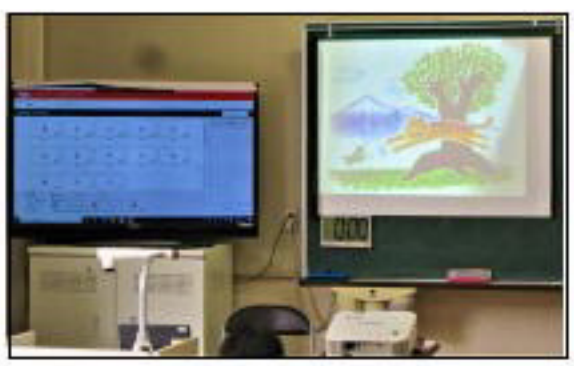
◇　参加の促進について＜「共有化」（シェア）＞

【◎成果】

・　教師の範読を聞いて，どこに「つまるおと」があるのか，「つまるおと」がどの平仮名なのかを問うことで，「ねことねっこ」には小さな「っ」（促音）がたくさんあることに気付き，何に着目して学ぶのかに気付くことができた。

・　挿絵を見せて，誰がどうした話なのかを押さえることで「ねっこ→いっぴき」「はらっぱ→はしる」「ねっこ→とびこえ」「ぱった→かけっこ」の様子のおもしろさと自分の体験を振り返ることで，「ねことねっこ」の詩の世界に浸りやすくすることができたと感じている。

・　簡単なペアトークを随所に取り入れることで，「つまるおと」を正しく読むための４段階の① 音の確認（声に出す）→② 視覚化（記号で表す）→③ 動作化（手で表す）



挿絵のMax拡大

について確認しながら安心して学習に取り組むことができた。共有する場面もペア代表，男子女子，全体など様々な形で行うことで集中して取り組むことができたと感じている。

代表ペア

男子全員で

ペアで練習

【▲課題】

・　本時の振り返りで「つまる音を学習してわかったこと頑張ったこと，もっとやってみたいことはありますか。」と問うことで，本時の自分の学びを自分の言葉で振り返ることができるようにと考えていたが，もっとシンプルに「つまる音を読む学習をしてどうでしたか。」と感想を尋ねてもよかったと感じている。本時では，「小さなつは，手をぐうにすることがわかった。」と振り返る児童もいた。教師の方から，既習の「はなのみち」の中にある「つまる音」について尋ねることで，国語科はもちろん，算数や生活科など他教科や絵本などの中にある促音にも目が向くような見方・考え方を育てたかったが不十分であった。

・　本時の評価について，促音の正しい読みについては，一人一人の「聞き取りチェック」を行うことが必要であると感じた。正しく見取ることで，より次時の書く活動での支援が明確になる。

② 落ち着いた学習集団づくりの工夫

【◎成果】

・　平素からの温かい学級経営の土台のおかげで，本学級での授業を大変スムーズに行うことができた。話を聞く・話す活動やペアトーク，前に出ての発表など，日常的にペア学習やグループ学習を行う習慣が身に付いていた。

・　授業の始めにフラッシュ型教材を用いて，清音の復習や「MIMはやくちことばしゅう」の音読をすることを続けることで，気持ちを切り替えて落ち着いて学習に向かう構えをつくることができた。

フラッシュ型教材

【▲課題】

・　４人班編成（班リーダー制）で朝の学習や授業時間でのペア学習やグループ学習を日常的に行う中で，自分の役割や分担を意識しながら，意見を交流したり，まとめたりする力を育むと共に，互いの良さや共に学ぶことの楽しさを実感できるように今後も丁寧な指導を続けていきたい。

・　本学級の児童（男子〇名，女子〇名，特別支援学級〇名，計〇名）にとって，特別支援学級から交流学習で来級する男子〇名が，一緒に過ごす時間が短くてもこのクラスの仲間であることや一人一人の違いが輝くクラスを全員で創ることの大切さを，道徳を中心とするさまざまな教育活動を通して実感できるように指導・支援を行いたい。